

スマート農業機械現地実演会(自動運転)を開催！

★ 全国初！耕起・播種・収穫作業のスマート農業技術を同時に実演

宮城県では、大規模土地利用型経営体で、生産から出荷まで一貫作業にスマート農業技術を活用した現地実証を行うため、農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に採択されました。今回、ロボットトラクター及び自動走行コンバインの現地実演会を開催します。

- 日 時 令和元年6月28日(金) 13時30分から15時30分まで
※荒天中止(中止の場合は当日(6/28)の午前10時までに農業振興課ホームページでお知らせします。)
- 開催場所 有限会社アグリードなるせ 小麦栽培ほ場
東松島市野蒜字下沼(別紙参照)
- 主 催 超低コスト「輸出米」生産実証コンソーシアム
(株)クボタ、クボタアグリサービス(株)仙台事務所、(株)南東北クボタ
(株)ケーエス、東松島市、(公社)みやぎ農業振興公社、
(有)アグリードなるせ〔実証農場〕
宮城県(農政部農業振興課(実証代表)、古川農業試験場(進行管理)、
農業・園芸総合研究所、石巻農業改良普及センター)
- 協 力 みやぎスマート農業推進ネットワーク
- 作業実演

食味収量センサ付き普通型(汎用)コンバインの自動運転による小麦の収穫作業



アグリロボコンバイン

「WRH1200(クボタ社製)」

オペレータが搭乗した状態で自動運転し、稲、麦収穫作業をアシスト。前進刈りとり、旋回(α ターンまたはUターン)、刈りとり・脱こくクラッチの入/切、刈取部の昇降、方向修正、排出ポイントへの移動、エンジン回転数の調節を自動で行うことができます。

食味・収量メッシュマップ機構により、刈り取りしながら、ほ場内の収量・水分・タンパクを自動で測定し、営農支援システム「クボタスマートアグリシステム(KSAS)」にデータを記録。翌年の作付に活用して、生産性向上につなげます。

ロボットトラクタによる無人での耕起作業、高速汎用播種機による大豆播種作業



アグリロボトラクタ「SL60A(クボタ社製)」

人が乗車しないで、無人での自動運転作業を実現。

リモコンによる遠隔指示で、作業開始・停止が行えます。高度なGPSと自動運転による、精度の高い耕うん、代かき作業が可能になります。

また、米、麦、大豆等に使用できる高速汎用播種機による大豆播種作業の実演も行います。

「みやぎスマート農業推進ネットワーク」とは

農業者、農業機械メーカー、試験研究機関・大学、関係団体、行政機関等が一堂に介し、スマート農業に関する最新の情報や普及に向けた課題などを共有し、「スマート農業先進県みやぎ」を実践していく推進母体です。